

大宰府条坊跡

第 103 次発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書

第 29 集

1991

筑紫野市教育委員会

大宰府条坊跡第103次発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書 第29集

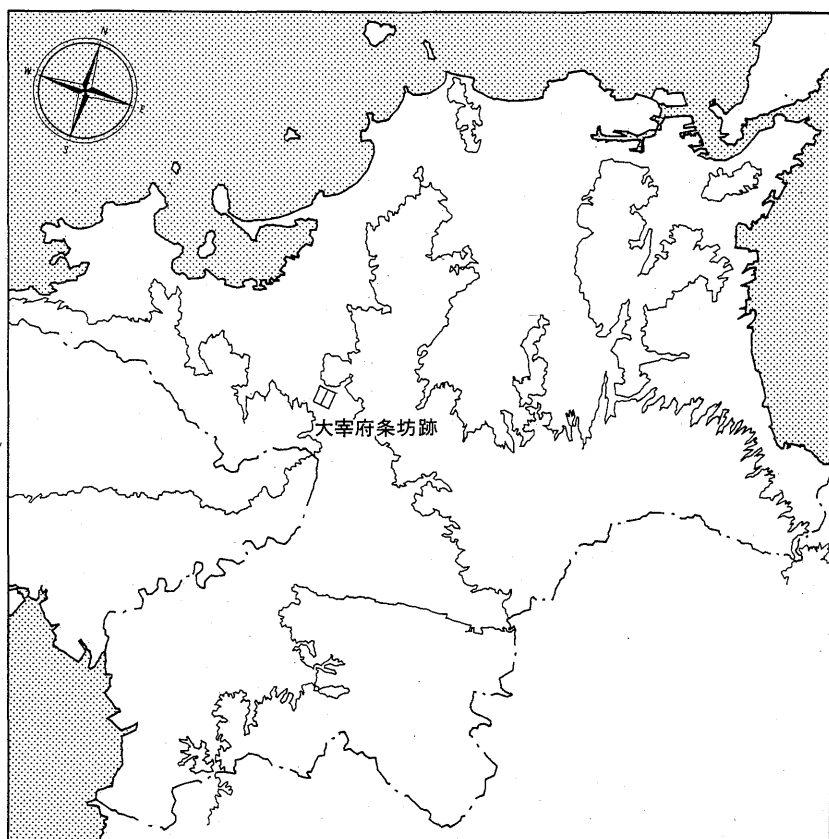
筑紫野市教育委員会

大宰府条坊跡

第 103 次発掘調査
筑紫野市文化財調査報告書
第 29 集

発行 筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市 753-1

印刷 株式会社川島弘文社
福岡市東区箱崎ふ頭6丁目6-41



序

本市は福岡市と久留米市の中間に位置し、福岡市のベッドタウンとして開発の波にあおられ、近年急速に都市化が進んできております。

東西から山々が迫り、その間の肥沃な平野を有し、太古から北部沿岸と内陸を結ぶ交通の要所として栄えてきた当市は、市の北部が大宰府条坊の一部でもあったことが、今日までの発掘調査であきらかになってまいりました。今回発掘調査を行った場所の近くにも塔原廃寺・杉塚廃寺といった古い寺院跡の遺跡が点在し、官道も近くを通っており、万葉の昔を思い起させるものがあります。開発の名の下にこうした遺跡が消えていくのが現状ではありますが、人々の生活のなかで、後世へ伝えていく義務のある文化財を保護するべく、今後ともさらに努力を重ねていく所存でございます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご協力いただいた関係各位の皆様方に深甚の謝意を表すとともに、今回の成果が市民の皆さんへの文化財への関心を高める一助となれば望外の喜びであります。

平成3年3月31日

筑紫野市教育委員会

教育長 永 渕 正 敏

例 言

1. 本書は、マンション建設に伴い、筑紫野市教育委員会が平成2年度（1990）に実施した、福岡県筑紫野市大字塔原498-3、498-14に所在する遺跡の緊急発掘調査の報告書である。
2. 調査は、筑紫野市教育委員会が株式会社ライフエステートと埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し実施した。
3. 現地での発掘に係る実測および写真撮影は向田雅彦が担当し、さらに大成ジオテック株式会社に写真測量を委託した。
4. 製図は森田くみ子が行った。
5. 本書の執筆はⅠを奥村俊久、Ⅱ～Ⅳを向田が担当し、編集は向田が行った。

目 次

	頁
I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境	1
III. 調査の内容	6
1. 調査概要	6
2. 掘立柱建物跡	6
3. 土壌	7
4. その他の遺構	8
IV. 小 結	8

挿 図 目 次

	頁
第1図 大宰府条坊跡第103次発掘調査地点周辺遺跡分布図（縮尺1／25000）	2
第2図 大宰府条坊跡第103次発掘調査地点周辺地形図（縮尺1／2500）	3
第3図 大宰府条坊跡第103次発掘調査地点遺構配置図（縮尺1／100）	4
第4図 掘立柱建物実測図（縮尺1／60）	6
第5図 1号・2号土壌実測図（縮尺1／40）	7

I. 調査に至る経過

平成2年5月、株式会社ライフエーストから共同住宅建築のための問い合わせが筑紫野市教育委員会にあり、当該地は周知の遺跡にあたるため、試掘調査による文化財包蔵状況の確認が必要な旨を指導した。試掘調査の申請を受け、同年5月8日に実施した結果ピット等の検出を確認した。事業者から文化財保護法第57条の2第1項の届出を5月18日付けで受理し、直ちに進達した。6月22日には福岡県教育委員会から事前に発掘調査を実施する旨の通知があり、市教育委員会ではこれを申請者に伝達するとともに、発掘調査の実施について協議を行った。この結果、筑紫野市が発掘調査を受託することとし、平成2年7月17日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、発掘調査を開始した。

調査組織	総括	筑紫野市教育委員会	教育長	永渕正敏
	庶務	筑紫野市教育委員会	社会教育課 課長	川原 孝之
			社会教育課 文化財係 係長	山野 洋一
			主事	奥村 俊久
	調査	筑紫野市教育委員会	社会教育課 文化財係 嘱託	向田 雅彦

II. 位置と環境（第1図・第2図）

筑紫野市は福岡市の南約19kmの所に位置しており、東から三郡山塊、西から背振山塊が迫り、その間に福岡平野と筑紫平野とを結ぶ狭長な平野部が広がっている。この狭い平野は九州の北部沿岸部と内陸部とを結ぶのに重要な役割をはたしており、大野城や基肄城、水城などが造られたように古代から交通の要衝であった。

平野の北部には「天下の一都会」と称された大宰府が、現在の太宰府市から筑紫野市にかけて営まれており、今回の調査地点は、背振山塊東端の天拝山麓から東へ延びる微高地上で、杉塚廃寺から南東約650m、塔原廃寺から北東約200mの所に位置し、鏡山猛氏の復元案によれば城郭の南西端の右郭22条5坊に当たる。

註

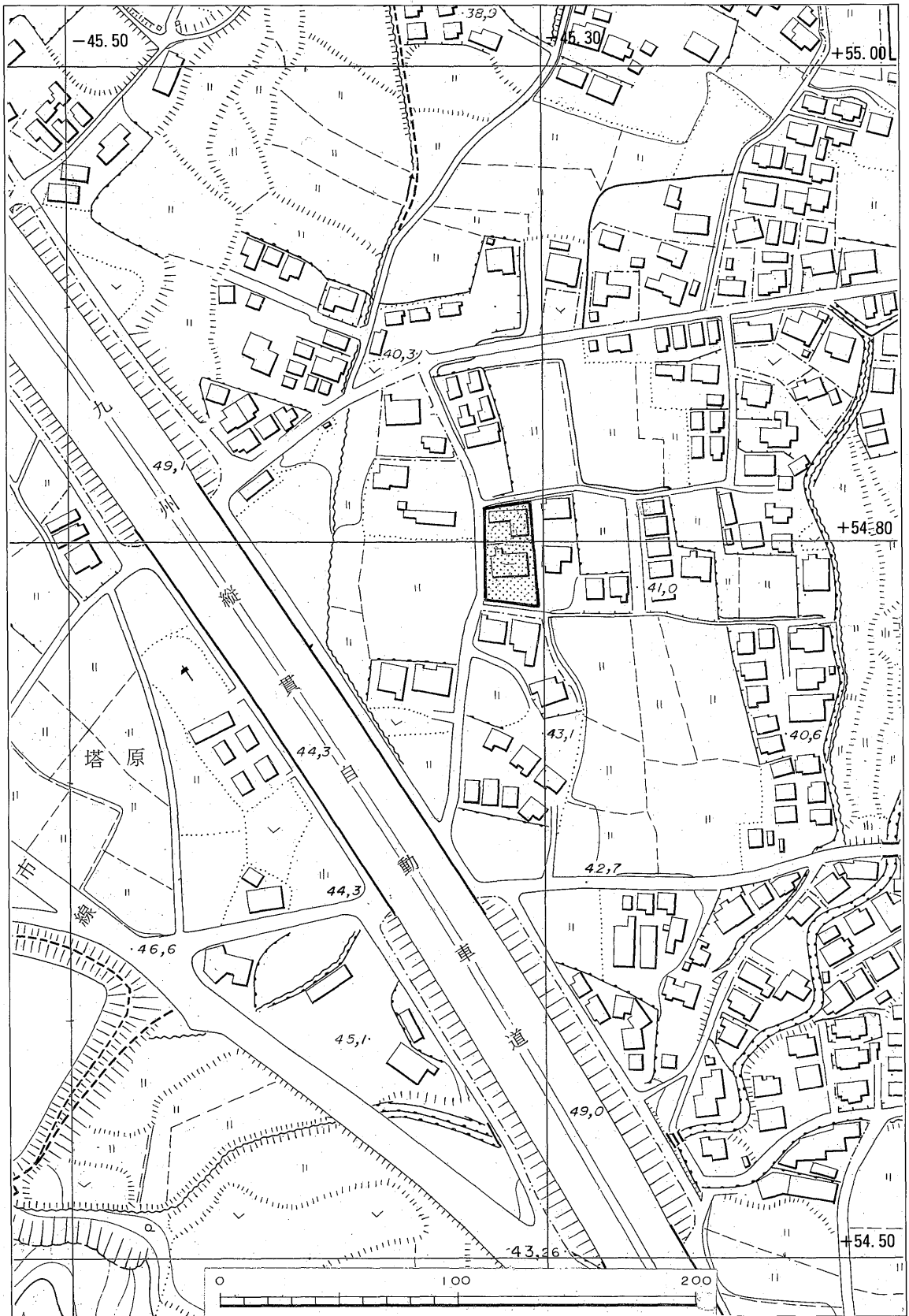
註1 『大宰府都城の研究』 1968 鏡山 猛 風間書房

註2 『塔原廃寺』 福岡県文化財調査報告書第35集 1967 福岡県教育委員会

註3 『杉塚廃寺』 筑紫野市文化財調査報告書第4集 1979 筑紫野市教育委員会

註4 『大宰府条坊跡』 第82次発掘調査 筑紫野市文化財調査報告書 第25集 1990

筑紫野市教育委員会



第2図 大宰府条坊跡第103次発掘調査地点周辺地形図（縮尺1 / 2500）



第3図 大幸府条坊跡第103次発掘調査地点遺構配置図（縮尺1／100）

Ⅲ. 調査の内容

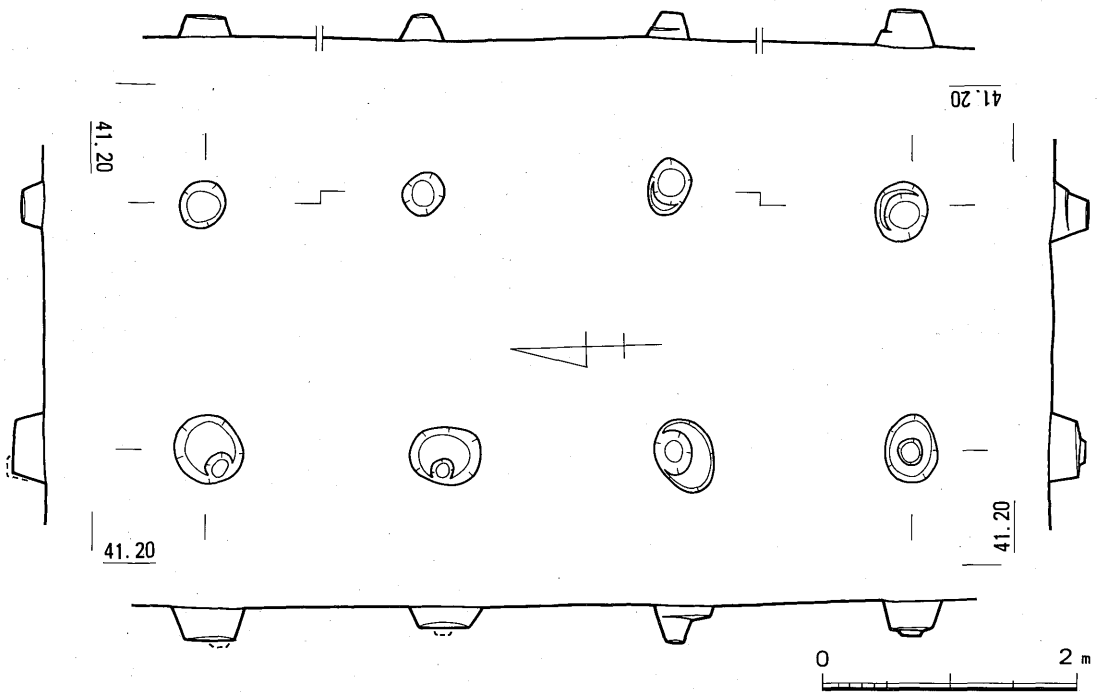
1. 調査概要（第3図、図版-2）

調査地面積は約850㎡程であったが、剥土の関係上調査区を南側と北側に二分し、前後して発掘調査を行った。また、調査区は既に宅地化されて、調査区中央部にはコンクリートの基礎が走り、地下埋設物等による攪乱が多く遺構面の破壊が進み、遺構として確認できたのは掘立柱建物跡1棟と土壇2基、溝状遺構2条およびピットを検出するにとどまった。

2. 掘立柱建物跡（第4図、図版-3）

調査区の南東部分で検出した柱列で、主軸方位は $N-2^{\circ}-W$ （真北）に取り、調査区内では東西方向に1間、南北方向に3間を確認したが、建物の規模は調査区の東側に延びる可能性を残す。柱穴の並びは不揃いで、掘方は径約40～60cm程、深さ約20～30cm程を測り、円形もしくは楕円形の平面プランを呈す。また、柱根の残るものはいずれも15cm前後を測り、梁行・桁行とも6尺を基準としている。

出土遺物がないため時期等の特定はできないが、柱列の主軸をほぼ南北方向に取ることから



第4図 掘立柱建物実測図（縮尺1／60）

大宰府条坊跡に関連の深い遺構と思われる。

3. 土 壙

1号土壙（第5図、図版-3）

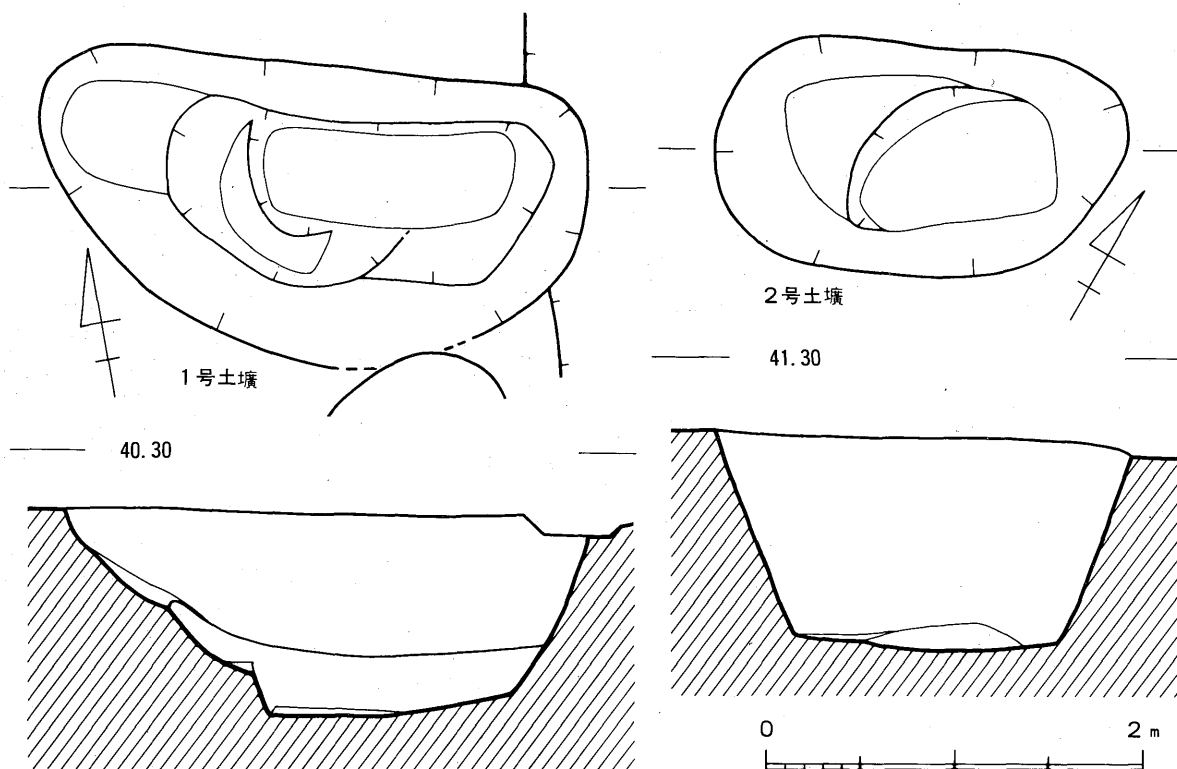
調査区の中央部やや北側に位置しており、主軸方位は $N-72^{\circ}-W$ （真北）に取り、二段掘りに近い土壙で、長楕円形の平面プランを呈す。長軸長約2.9m、短軸長約1.6m、深さ約1.6mを測る。

土壙内部の埋土はほぼ単一の黒色土で、最下部に暗黄灰色の砂質土層を一層持つ。出土遺物等がなかったため時期等の特定はできなかった。

2号土壙（第5図、図版-3）

1号土壙の東側に位置し、主軸方位を $N-61^{\circ}-E$ （真北）に取り、二段掘りで長楕円形の平面形態を呈している。長軸長約2.2m、短軸長約1.2m、深さ約1.1mを測り、土壙の埋土は1号土壙同様、ほぼ単一の黒色土で最下部に暗黄灰色砂質土層を一層含んでいた。

出土遺物はなく、時期等の特定はできなかった。



第5図 1号・2号土壙実測図（縮尺1/40）

4. その他の遺構

溝状遺構を2条と土壌に近い形態の遺構およびピットを検出したが、溝状遺構および土壌に近い形態の遺構の埋土は他の遺構の埋土とは異なり、かなり新しい時期のものであり、ピットも列をなすものは確認できなかった。

IV. 小 結

今回の調査地点は、鏡山猛氏による大宰府の推定条坊^{註1}では右郭22条5坊で、推定郭内の縁辺部に当たる。大宰府条坊跡に関連がありそうな遺構として、正確な時期や規模等是不明ではあるが掘立柱建物跡を1棟検出するにとどまったが、杉塚廃寺^{註2}、塔原廃寺^{註3}が隣接し、塔原遺跡^{註4}では九州縦貫自動車道の調査において、弥生時代の住居跡を始め、弥生時代から中世に至る遺構・遺物が発見されている。また、未報告ではあるが、市内の大宰府条坊跡第99次発掘調査地点（1990）では、鴻臚館に至ったであろう官道も確認されている。今回の調査では、遺構の性格等を明確に決定し得なかったが、大宰府都城縁辺部の解明に、今後の周辺部の調査例を含め期待したい。

註

註1 『大宰府都城の研究』 1968 鏡山 猛 風間書房

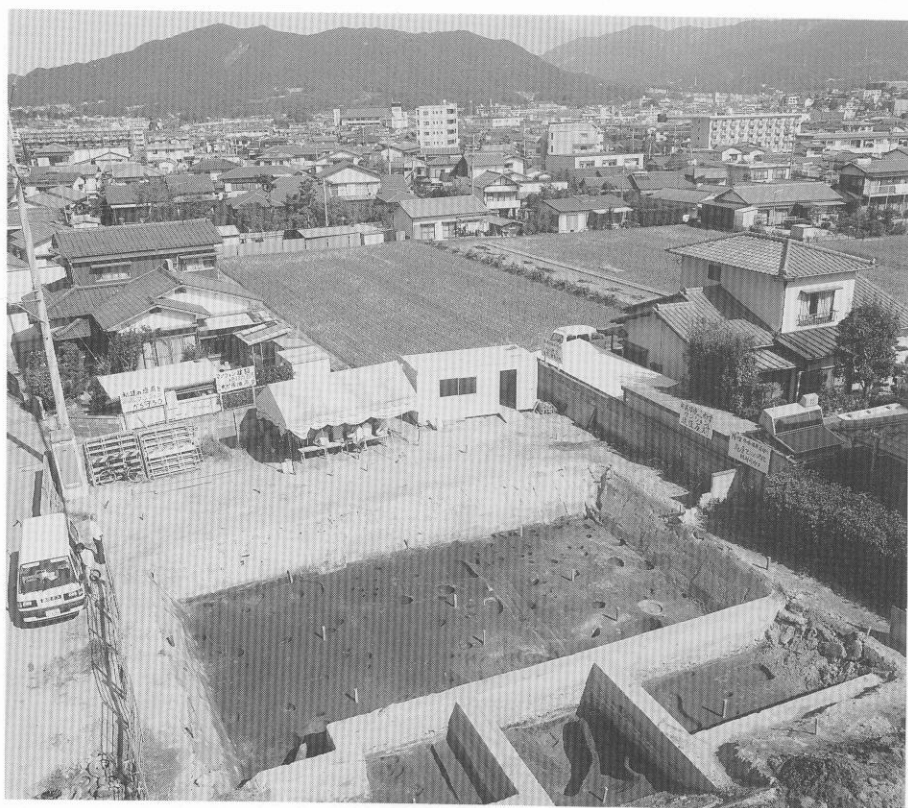
註2 『杉塚廃寺』 筑紫野市文化財調査報告書第4集 1979 筑紫野市教育委員会

註3 『塔原廃寺』 福岡県文化財調査報告書第35集 1967 福岡県教育委員会

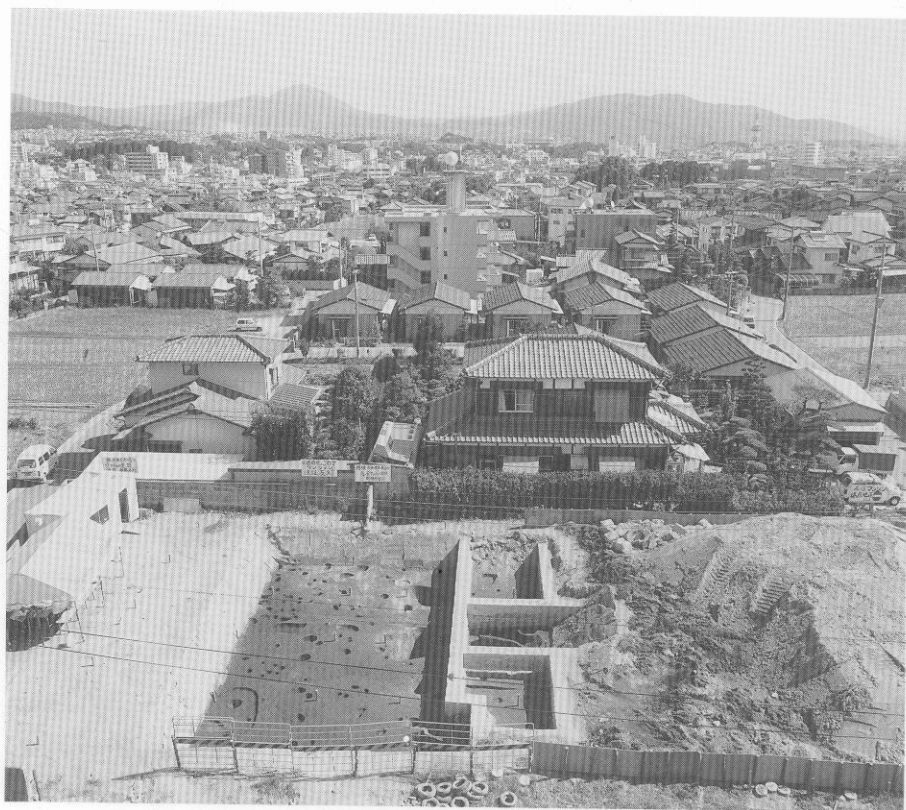
註4 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書（IV）』 1973 福岡県教育委員会

『大宰府条坊跡』第82次発掘調査 筑紫野市文化財調査報告書 第25集 1990

筑紫野市教育委員会



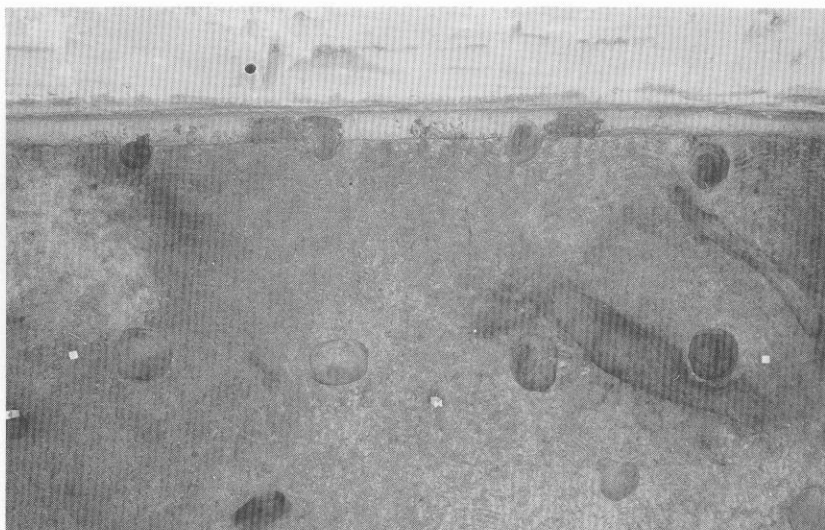
調査区遠景（南から）



調査区遠景（西から）



調査区全景



掘立柱建物跡



1号土坑



2号土坑